

Title	執筆者紹介
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1977
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.48, No.2 (1977. 6) ,p.111(223)- 111(223)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19770600-0111

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

いての彼等の愛憎相半ばする感情の核心に、より重大な疑惑——彼等自身及び社会・政治権力への彼等自身の要求の正当さへの疑念があることが明らかになった。

以上がこの論文の要旨である。著者が指摘しているように、三月前期の自由主義は、従来、主として政治思想の面から或いは漠然とブルジョワイデオロギーとして把えられてきたため、社会との関連において論じられることが少かった。また自由主義運動の推進者であるブルジョアジーの実態も余り明らかでなかった。従って、社会との関連において自由主義を把えようとする著者のアプローチは、未開拓の領域の解明に寄与するものと思われる。また従来の研究がフランクフルト国民議会に関心を集中したのに対して、地方の自由主義の活動に焦点をあてたことや、ややもすると単一的に把えられがちな自由主義運動の担い手や自由主義者の社会観の多様性の指摘やそれらから生ずる自由主義運動が内蔵していた分裂性の指導などは、自由主義の本質の理解にとって示唆に富むものといえよう。

(1) James J. Sheehan, *The Career of Lujo Brentano. A Study of Liberalism and Social Reform in Imperial Germany*, Chicago 1966.

執筆者紹介

伊藤清司	慶応義塾大学文学部教授
戸沢行夫	同 文学部講師
三宅和朗	慶応義塾大学院博士課程
三上朝造	同
東畑隆介	慶応義塾大学文学部助教